



第8060号

2024年5月9日(木)

中国首脳との積年の誼に賭けるロシア

エコノミスト 西谷 公明

ロシアのウラジーミル・プーチンは、通算5期目の大統領就任後、いち早く北京を訪れる。中口の至上の結束を確認し、西側に向けてそれをアピールするために。

◆ 盟友ぶりを世界に誇示

思い起されるのは11年前である。

2013年3月14日、習近平氏は午前で開催された第12期全国人民代表大会で中国の新しい国家主席に就任するや、午後にはプーチン大統領と電話会談を行って、「史上最も友好的な中口関係の構築」を約束し合うと、翌週モスクワへ飛んだ。

クレムリン宮殿の主は、その格別の客を騎馬儀仗(ぎじょう)隊で迎えると、「タヴァーリシチ(同志)！」と声も高らかに呼び掛けて、2人の盟友ぶりを世界に誇示したのだった。

◆ 国営ガスプロムが赤字に沈む

戦争景気に沸くロシア経済に、不安がないわけでは決してない。

インフレ圧力は高いし(ロシア中銀は政策金利を16%へ引き上げたまま据え置いている)、東部ウクライナの占領地域の維持・開発コストは、国民に新たな税負担を強いるに違いない(所得税の見直し論が出ているのも、多分そのためだ)。

戦時経済で民生分野の活力はそがれ、技術刷新のリソースも奪われた。長期的に見れば、停滞への長いトンネルへ入っていることは想像に難くない。

しかもここへきて、国際社会の制裁が経済にはっきり影を落とし始めてもいる。経常収支は黒字を維持するものの、23年は前年の2380億ドルから500億ドルへ大きく落ち込んだ。原油とガスの輸出が減ったためであることは言うまでもない。

そして国営ガスプロムは、同年12月期に1兆円を超える巨額赤字を計上した。ガスプロムの赤字決算は通貨危機後の1999年以来初めてだという。

◆ 制裁下、中国の技術に頼るロシア

ロシアはこれまで、先端的な精密加工機械(レーザー、光ビーム、ウオータージェットなど高度な技術を利用したもの)をドイツ、イタリア、スイス、日本、台湾、韓国などから輸入してきた。しかし、今まさに兵器の製造に不可欠な精密工作機械のほとんどを中国からの輸入に頼っている。

中国の通関統計によれば(残念ながら侵攻後、ロシアは貿易の内訳を公表していない)、これらの工作機械の対口輸出額は、ウクライナ侵攻前の21年の1億6500万ドルから侵攻後の23年には9億4300万ドルへと5.7倍を超える勢いで急増した。半導体、精密光学機器などの輸出額も増えている。

制裁下のロシアは、中国の技術への依存を高めた。米国が、これらの取引に関わる中国や香港企業を制裁リストに加えたのもそれ故だ。

中国は、ロシア産原油・ガスの最大の顧客でもある。中口は技術と資源で結ばれている。プーチン大統領にとり、現下の戦争の行方は中国の協力いかに懸かる。習近平国家主席は、盟友と結んだ積年の誼(よしみ)にどう応えるだろうか。

(にしたに・ともあき)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003